

おいでん・さんそんSHOW

1月号
2020.01.01発行

地域を未来へつなぐ
人材育成事業 **全域**
ぜんいき



(右上)豊森なりわい塾での森林について学ぶ講座 (左下)ミライの職業訓練校は、自身のモヤモヤを深めて次の一歩を考えていく



豊森なりわい塾と ミライの職業訓練校が 生み出した人材って?

◆豊森なりわい塾◆
豊森なりわい塾はトヨタ自動車、NPO法人地域の未来・志援センター、豊田市の3者による共働りの人材育成事業で8期10年の実績があり、9期目になる今年度より(一社)おいでん・さんそんが事務局として加わりました。豊田市の山村地域をフィールドに、地域を知り地域に学ぶことで、暮らしの足元を見つめ、「人と人」「人と自然」そして世代を結び、持続可能な社会を作る考え方を共に学びます。



5期生の浅野陽介(右)さんと9期生の恵美子さん(左)の結婚披露パーティは地域の方に祝われつくラッセル(旧築羽小学校を再活用した地域を担う人材創造拠点)で開催された

山村地域が持続していくためには、その価値を、自分の人生に重ね合わせて考えることのできる人材が必要です。その人材が育ったとき、ある人は、山村地域で自治を進めるリーダーとなり、ある人は、都会にいながら山村の価値を暮らしに取り入れた人生を送ることになるのではないかと。そう考え、おいでん・さんそんセンターは、ミライの種まきとして人材育成事業に力を入れていきます。今回ご紹介する「豊森なりわい塾」は、「ミライの職業訓練校」は、豊田市内だけではなく、周辺市町村の山村地域へも影響を与えている学びの場です。

◆仕事で貢献する浅野夫妻◆
5期生の浅野陽介さんは、名古屋市内での暮らしに生きづらさを感じ、豊森なりわい塾の受講を決めました。「お金では測れない価値」があることに気が付き受講中に旭地区に単身で移住。合同会社アサノエンタープライズを起し、「We Love ASAHU」Tシャツの企

(※) 持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。

センター長の ミライのフツツに 向かって!

vol.62
少子化

Uターンして6歳から0歳まで4人の子育て真っ最中の長女に尋ねた。「将来大丈夫か?」「何とかなるっしょ」と能天気な答え。日本の出生数のピークは1949年、約270万人「第1次ベビーブーム」だ。敗戦直後の配給制の最中、人々には長い戦時中の恐怖と抑圧から解放された「これで何とかなる」という明るいミライへの展望があつたに違いない。今年の出生数は、90万人を割り込むという。食糧や物に溢れ、治安の良いこの時代なのにである。国はかねてからエンゼルプランを掲げ、子育て支援策を中心とした様々な対策を講じているが、合計特殊出生率の向上は、兆しもないのが現状だ。日本の危機と言っても良い。



センター長
鈴木辰吉

歴史人口学者の鬼頭宏氏は、日本人は、これまでに4度の人口ピークと減少に臨んできたという。1度目は、縄文晩期、狩猟採集

社会を気候変動による気温低下が襲い食糧供給量が激減、2度目は平安時代における温暖化による米不足、3度目は、江戸期における気温低下による大飢饉、4度目が現在の人口減少。過去3度の人口減少が、食糧不足により死亡率が出生率を上回ることで発生したのに対し、気候変動ではなく出生率の低下が要因になっている点で異なるという。そして、鬼頭氏は、今の少子化対策

に足りないものは「人々が幸福の新しい価値観を持ち、未来に不安のない社会を実現すること」だと答えている。

少子化の正体は、ミライに対する漠然とした不安であり、競争に勝ち残らなければならぬ社会からそれを消し去ることはできない。誰もが「何とかなるっしょ」と思える社会が、令和の時代に実現できればと思う新年である。

イベント情報

令和元年度 いなかとまちのくるま座ミーティング

今年小学校に入学したこどもたちの65%は、大学卒業時に彼らが小学生の頃には存在していなかった職業に就くことになるとも言われています。

グローバル化や人工知能などの技術革新が進み、未来が見通せないこれからの時代。世代を問わず、人はいかに学び、幸せに生きるのか。様々な『ひとなる』の交わりから、私の『ひとなる』、学び成長する道筋が見つけられるかもしれません。くるま座になって、一緒に考えてみませんか?

- 日時 | 2020年2月1日(土) 13:00~17:30(受付開始12:30)(18:30からは夜なべ談義)
- 場所 | 豊田商工会議所 多目的ホール(小坂本町1丁目25)
- プログラム | 13:00開会
- *第1部【定員200名】13:10~14:10基調講演『地域が“ひとなる”とは?~辺境 隠岐島前からの挑戦~』講師:大野佳祐氏(島根県立隠岐島前高等学校経営補佐官) 14:20~15:30パネルトーク『わたしが“ひとなる”のために~グローバルとローカルを結ぶグローバル人材の育成~』コーディネーター:澁澤寿一氏(豊森なりわい塾実行委員長) パネリスト:戸田友介氏(ミライの職業訓練校世話人) / 高山治朗氏(あさひ根っ子の会) / 鈴木辰吉氏(押井宮農組合代表) / 鈴木佳代氏(子育て耕縁会講師) / 篠崎郁恵氏(豊森なりわい塾卒業生)

- *第2部【定員200名】15:40~17:10くるま座談義(第1部パネリストを囲んで対話)
- *第3部【定員40名】18:30夜なべ談義(交流会) ※交流会のみ参加費(5,000円程度)が必要です。 ※詳細については、センターホームページをご確認ください。チラシのダウンロードもできます。

- 参加申込 | チラシ裏面の申込票に記入の上、FAXで送信または次の項目を記入したメールをお送りください。①氏名②参加希望(基調講演・パネルトーク/くるま座談義/夜なべ談義)③住所④電話番号⑤メールアドレス⑥所属

- 申込み締切 | 1月27日(月) 12:00必着 ※応募者の個人情報は、受講案内の発送など当シンポジウムの運営に使用します。

- 問合せ | おいでん・さんそんセンター-TEL:0565-62-0610
mail:sanson-center@city.toyota.aichi.jp



申込専用のQRコード↑

基調講演講師プロフィールのご紹介



島根県立隠岐島前高等学校経営補佐官/一般社団法人いなきものはないう代表理事
おおの けいすけ
大野佳祐氏

1979年、東京生まれサッカー育ち。大学卒業後、早稲田大学に職員として入職。競争的資金獲得などで大学のグローバル化を推進。2010年にはプライベートでバングラデシュに180人が学ぶ小学校を建設し、現在も運営に関わる。2014年に海士町に移住し、隠岐島前高校魅力化プロジェクトに参画。教育とまちづくりを往来する日々。

編集部からのお詫びと訂正

- 12月号表紙の「特集 第8回いなかとまちの文化祭開催レポート」中の「無農薬・無化学肥料」の表記は、「特別栽培農産物(※)」の間違いでした。お詫びして訂正します。
- ※農薬、化学肥料を慣行栽培の2分の1以下に低減して栽培された農産物



REPORT

『人生100年時代の片付け術～人生をより良くする整理法』講座を開催



いつまでも楽しく暮らすためのモノとの付き合い方を学ぶ

12月8日(日)、足助地区の百年草で『人生100年時代の片付け術～人生をより良くする整理法』講座を主催しました。講師は一般社団法人実家片付け整理協会の代表理事渡部亜矢さん。『カツオが磯野家を片付ける日(SB新書)』など著書も多数ある実家片づけアドバイザーの渡部さんに東京からお越しいただきました。

もうすぐやってくる年末から始められる片付けのノウハウを、数々のご経験からの事例になぞらえて、わかりやすくご紹介していただきました。参加者の皆さんからは、「スッキリ片付けて楽しく生きていきたい」などの感想がありました。人生100年時代に、誰もが最期まで

安全に充実した人生を送りたいものではないでしょうか。そのため、モノとの付き合い方を見つめ直す素晴らしいきっかけを持ち帰っていただけたと思います。(木浦幸加)



講師の渡部亜矢さん



25名が参加した



REPORT

地域ビジョン「しきしまときめきプラン2020」策定に向け 公開討論会を開催



活発な意見交換がされ、先端を行く地域ビジョンに期待大

12月7日(土)、「しきしまときめきプラン2020」策定に向けた講演会・公開討論会が行われました。旭地区敷島自治区では、2010年から、地域の将来像を住民みんなで共有し、効果的にまちづくりを進めるための「5か年行動計画」を定めて地域課題の解決に取り組んでいます。おいでん・さんそんセンターは、アンケートや、計画づくりに側面から支援してきました。

今年が「行動計画」の見直しの年にあたり、「新たなステップへの挑戦」として、3つの重点プロジェクトが提起され、足助病院名誉院長早川富博氏の基調講演「支え合いによる幸せな暮らしと農村の未来」に続き、中学生から高齢者までの12名が本音の討論を交わし、70名余が傍聴しました。

重点プロジェクトは、地域課題解決会社を作る「支え合い社会創造プロジェクト」、押井の里の「自給家族」を新たに2つ作り、自治区の全農地を保全する「自給家族による農地保全プロジェクト」、人口減少、小数社会化を正面から受け止め、地域行事や組織を再編する「未来への構造改革プロジェクト」の3つ。

いずれも、大胆な提起とあって、討論は白熱しました。若者世代とあわせて参加した浅野陽介さんの、「地域行事の見直し、組織の再編を言

うと、後ろ向きに捉われがちだが、限られた時間の中で、無駄を削ぎ、幸せな暮らしを実現するための大切な時間に振り向けると考えると、見直しに前向きになれる。」(意識)の発言に一同納得。

庄巻は、中学3年生の松井春薫さんの「大人たちは私たち子どもに、地域に学び将来の夢を語れと言っているので、おとなしくやっているが、旭に残ろう、戻ってこよと言同級生はいない。私たち子どもの提案が一つでも実現したことがあるでしょうか。」(意識)の発言に、会場は一瞬沈黙し、やがて大きなどよめきになりました。

スウェーデンの少女グレッタさんの気候変動に関する国連演説を思わせる、大人たちへの怒りとも受け取れるこの勇氣ある発言に、私たち大人は、真摯に向き合い、応えていかなければならないと思いました。(鈴木辰吉)



12名が討論を交わし、70名が傍聴した



中学生の松井春薫さんの発言にどよめきが起こった



稲武地区へ移住予定の大山夫妻と娘さんたち

画販売、イベントでの音響オペレーターなど多様な仕事をして地域を盛り上げています。9期生の浅野恵美子さんは、陽介さんとの結婚を機に豊橋市から旭地区に移住。現在、豊森で地域のことを学びながら、足助地区新盛町のデイサービス型地域活動支援センター畦道に勤務し、地域の精神障がい者やそのご家族のサポートに従事しています。

受講が決めた手とり

来春 稲武地区へ移住

「造園業を営む泰介さんは講座で「半農半X」という生き方を知り、自給農をしながら地域の中でくらし、かせぎ・つとめ」のバランスを取りつつ自然を通じたつながりを築きたいと思うようになり、す。似顔絵を描くことをなりわいとする眞記さんも地域から学ぶ中で自分にできることは無数にあると気づき、他のなりわいも積極的にやってみようかと考えるようになったといっています。

ミライの職業訓練校

ミライの職業訓練校は、職業技能習得の場ではなく、卒業しても就職ができるわけではありません。受講生は、山村をフィールドに活躍している先輩たちの暮らしや仕事ぶりを訪ね、自分自身のモヤモヤを深め、自分がやりたいことを見つけ、仲間と共に学び合いながら「天職」を探し



今期ミライの職業訓練校では、移住者を訪ね話を聞いた

唯一のルールは、自分も相手も否定しないこと。世話人と呼ばれるスタッフも共に学び合う仲間の一人として伴走します。今年で5期目になりますが、受講の前後の暮らしが変化があった方を2名紹介します。

2期生 篠崎郁恵さん

「稼いだお金をストレス発散のために使う」など彼女にとっての悪い習慣を、田舎に行ったらやめられるかもしれないという仮説を立てました。「農業がしたいわけではない、でも農的な暮らしはしたい」と移住を決意。現在はつくラッセル(旧築羽小学校を再活用した地域を担う人材創造拠点)を舞台に山里の暮らしの知恵を伝承する「山里手習い塾」を主催しています。

旭地区で地域課題解決に取り組む3期生 野田侑希さん

「理想が高いのに意思が弱い」、今年度は、都市部からの参加に加えて地元の高校生も参加しています。今後は、若い方たちの参加を期待しています。(豊森なりわい塾 松本真実)



受講生は、移住者の話をヒントにして自らのモヤモヤを深める



(※)TEDとは1984年に設立された、世界的なプレゼンテーションの協議会。TED Talk に感銘を受けたメンバーが TEDx イベントを名古屋大学で開催しようという意気込みのもと、2013年度に発足。実行委員会は名古屋大学の学生を中心とした名古屋近辺の学生で構成されている。